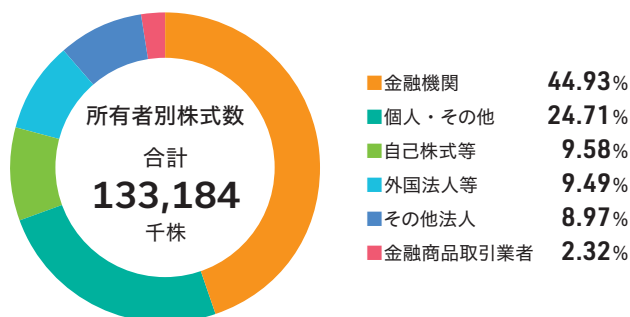


株式情報／会社情報（2025年4月30日現在）

●株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	133,184,612株 (自己株式 12,759,931株を含む)
株主数	62,849名

●株式分布状況



●会社概要

会社名	クミアイ化学工業株式会社
設立年月日	1949年6月20日
資本金	4,534百万円
事業内容	殺虫剤・殺菌剤・除草剤などの農薬の製造・販売 有機中間体・アミン硬化剤等の化成品の 製造・販売
従業員数	2,134名（連結）（2024年10月31日）
本社所在地	〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号

●大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
全国農業協同組合連合会	26,527	22.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,159	8.43
農林中央金庫	4,480	3.72
共栄火災海上保険株式会社	4,480	3.72
静岡県経済農業協同組合連合会	2,770	2.30
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,210	1.83
THE NOMURA TRUST AND BANKING CO., LTD. AS THE TRUSTEE OF REPURCHASE AGREEMENT MOTHER FUND	2,195	1.82
SMBC日興証券株式会社	2,183	1.81
日本曹達株式会社	1,928	1.60
クミアイ化学工業従業員持株会	1,828	1.51

(注) 1. 持株数、持株比率は表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 当社は自己株式12,759,931株を保有しておりますが上記の大株主から除いております。
3. 持株比率は、自己株式(12,759,931株)を控除して計算しております。

株式メモ

事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	毎年1月中
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先（郵送先）	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	定時株主総会については10月31日、その他必要がある時は、あらかじめ公告する一定の日
公告の方法	電子公告により行う公告掲載URL https://www.kumiai-chem.co.jp/ (但し、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

株式に関する手続き等について

当社株式のお手続き窓口とお問合せ先は次のとおりです。

お手続き窓口およびお問合せ先

- まだ受け取っておられない配当金の受領に関する手続きおよびそのご照会
- 特別口座に関する振替請求、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 株主名簿にご登録の配当金受取方法に関するご照会
- 株主さま宛郵便物等の発送と返戻に関するご照会
- 特別口座に関する各お手続きおよびそのご照会

お手続き窓口	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店の窓口
お問合せ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 各種お問合せ 0120-232-711
インターネットによるダウンロード	https://www.tr.mufj.jp/daikou/

- お取引の証券会社等に開設されている振替口座に預託されている当社株式に関する単元未満株式買取請求・買増請求、配当金の受領方法の指定、住所等の変更の各お手続き
- 上記の各お手続きに関するご照会

お取引口座を開設されている証券会社等にてお手続き又は、お問合せをお願いします。

\ アンケートご返送のお願い /

株主の皆様の率直なご意見・ご感想をぜひお聞かせください。お手数ではございますが、同封のアンケートはがきにご記入いただき、ご返送くださいますよう、お願い申し上げます。

アンケートはがきご返送締め切り 2025年7月31日



IR情報を当社ホームページでご覧になれます。
<https://ir.kumiai-chem.co.jp/ja/index.html>

クミアイ化学ir 検索



本社 東京都台東区池之端一丁目4番26号 ※この株主通信に関するお問合せは下記までお願いいたします。

広報課 03-3822-5036

letter vol.15

第77期 中間株主通信 2024年11月1日 ▶ 2025年4月30日

株主の皆様へ

当中間連結会計期間の業績は、前年同期比で増収・営業増益となりました。国内農業事業は、自社開発剤の水稻用除草剤エフィーダ®や水稻用殺菌剤ディザルタ®がけん引し、好調に推移しました。海外農業事業では、当社の基幹剤である畑作用除草剤アクシーブ®がアルゼンチン向けで出荷減となったものの、米国向けはトランプ関税を懸念した出荷時期の変更により出荷増、オーストラリア向けにおいては特許侵害品に対する法対応が功を奏し出荷増となりました。また、ブラジル向けにおいても販売促進の強化により出荷増となったことから、海外農業事業全体としては好調に推移しました。

化成品事業では、生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調であったことから、ビスマレイミド類の出荷が増加しました。以上の結果、当中間期は売上高962億円（前年同期比9.2%増）、営業利益94億円（前年同期比6.9%増）となりました。経常利益は、為替差益を計上した前年から一転して為替差損を計上したことにより83億円（前年同期比36.2%減）となり、親会社株主に帰属する中間純利益は63億円（前年同期比32.7%減）となりました。通期の連結業績予想につきましては、2024年12月の発表から変更はございません。

米国の通商政策などの大幅な変更による世界経済の下振れリスクや金融資本市場の変動の影響が懸念されるなど、先行きの見通せない状況が続くことが予想されますが、通期計画の達成に向けて、引き続き各種施策を確実に進めてまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

横山 優

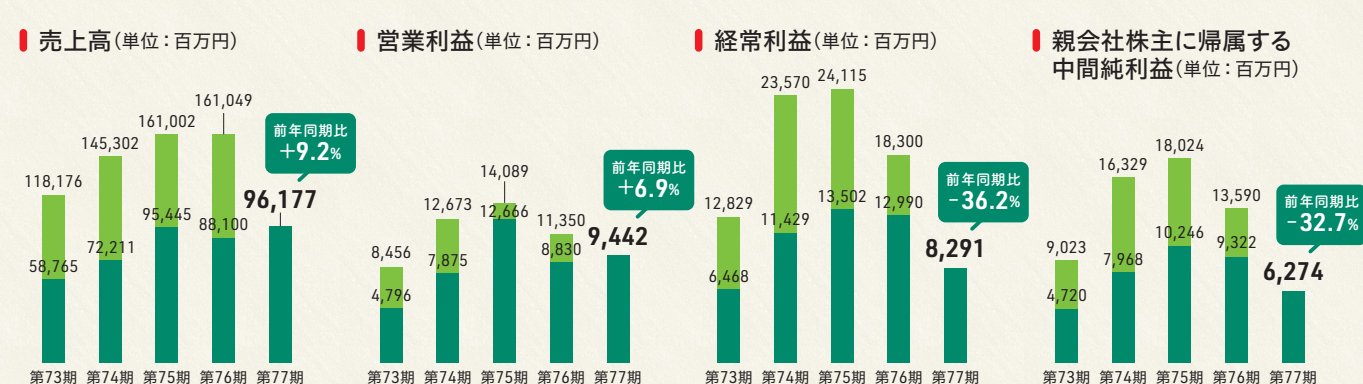


横山社長に聞く Q & A

Q 国内で米不足とそれに伴う米の価格上昇が起きていますがどのように捉えていますか？

A 2024年から米不足が発生し日本国民の食生活に大きな影響を与えています。2025年4月の消費者物価指数で米類は前年比98.4%上昇となり、この上昇率は1971年以降で最も高い値となりました。当社主力事業の農業、特に水稻用除草剤・箱処理剤は、稲作において発生する雑草・病害虫を効率的に防除することで、「生産者の労力軽減」「安定した収量確保」に直結する資材であることから、多くの生産者にご使用いただいており、人々の生活に欠かせない「食」を根底から支えています。当社の製品・技術により、病害虫・雑草の防除のみならず、非生物のストレスを緩和することで、農業生産量の維持・拡大に向けた生産性向上に貢献できるものと考えております。

財務ハイライト



BUSINESS TOPICS

TOPICS ①

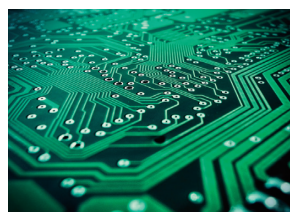
半導体分野拡大を加速

当社グループは、化成品事業を農業事業に次ぐ第2の柱に成長させるべく、今後成長が見込まれる最先端半導体分野への事業領域の拡大を加速させていきます。2030年には化成品事業全体で売上高300億円を目標としています。

＜COSガス＞

農業中間体の硫化カルボニル（COS）は、半導体メモリ（3D NAND※）製造に用いるエッチングガスとして使用されることから、当社では2019年から半導体向けCOSガスの開発を進めてきました。この度、生産方法等を最適化することにより、半導体グレードの高純度COSガスを製品化することに成功し、本格販売を開始しました。

※フラッシュメモリの一種。メモリセルを垂直方向に積層することで、大容量化を実現。



半導体イメージ

＜ビスマレイミド（BMI）類＞

積層板や複合材料などに使用される樹脂に、耐熱性、強靱性を付与するために用いられるBMI類は、生成AIサーバー向け電子材料の需要増加に加え、通信ネットワークの拡充により注目を集めている低軌道衛星（LEO）にも新たに使用されるなど、需要が拡大しています。2025年5月にはグループ会社のケイ・アイ化成(株)にてBMI類の生産も可能なマルチプラントが完成。生産体制を強化し、高まる需要を取り込みます。



ケイ・アイ化成(株)新プラント外観



TOPICS ②

米国Valent社と業務提携で、 水稲用除草剤エフィーダ®開発

当社と米国Valent社は、米国における水稲用除草剤エフィーダ®（有効成分名：フェンキノトリオン）の共同開発に関わる独占的契約を締結しました。これにより、両社はエフィーダ®の農業登録に向けて試験や評価面での連携を強化することになります。両社が協働でイノベーションを推進することで、水稲栽培における雑草防除上の課題を解決し、持続可能な農業の実現に貢献します。



水稲イメージ



その他TOPICS

水稲用殺菌剤リガード®剤を農業登録

ブーンリガード®パテント 箱粒剤 エクスロットル® 箱粒剤



ビオトープ 「クミカ レフュジア 菊川」が完成

「キャベツとチャを まもるはなし」 を公開



統合報告書 2025を発行

当社が勝訴的和解に 至った特許権紛争が 中国の「知的財産権行政 保護の典型事例」に選定



その他の取り組みについては、当社コーポレートサイトもご覧ください > <https://www.kumiai-chem.co.jp/>

Focus On クミカ

クミアイ化学のビジネス領域

農薬業界 について知る

当社の活動は各事業所や従業員一人ひとりの取り組みによって支えられています。
各事業所・製造拠点・事業の流れをご紹介するこのコーナー。
今回は、クミアイ化学の主力ビジネス領域である農薬業界についてご紹介します。



▶ 当社の事業における取り組みの詳細は「統合報告書2025」をご覧ください。

農薬の構成

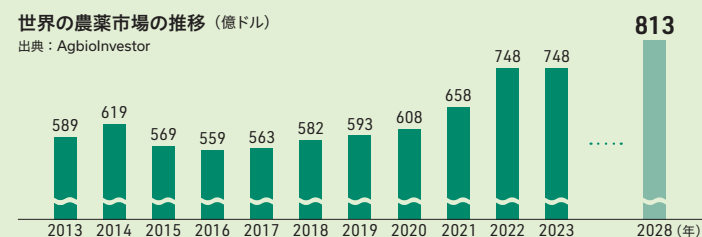
農薬は有効成分と副資材で構成されます。有効成分は原体とも呼ばれ、当社のアクシーブ®やエフィーダ®は原体に相当します。原体の効果を十分に発揮させるには、均一に散布することが重要です。原体と副資材をバランスよく配合して製剤化することで、それを実現したものが農薬として使用されます。機能性を高めるため2種類以上の原体を組み合わせることもあり、これを混合剤といいます。



1種類だけの原体が入った農薬を単剤、
機能性を高めるために2種類以上の原体が入った農薬を混合剤という

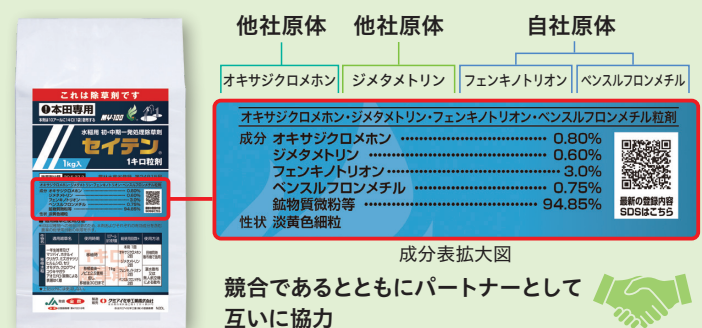
農薬業界の特徴 ①

世界の農薬市場は南米・アジアを中心として世界人口の増加や食生活の変化による穀物需要の増加を背景に成長基調が続いており、2028年には813億ドルになると予測されています。



農薬業界の特徴 ②

農薬メーカーは、数多くの雑草や病害虫に対し、十分なポートフォリオを構築するため、自社が開発した原体を他社に導出したり、逆に他社が開発した原体を導入することが一般的です。特に国内では、水稲一発処理除草剤や箱処理剤において他社原体を導入し、混合剤として機能性を高めた製品の開発を行うことが多く、さらに自社原体を他社に導出することで収益の最大化を図っています。各農薬メーカーは、競合相手であるとともにパートナーでもあります。



農薬業界の特徴 ③

農薬は、農耕地だけでなくゴルフ場や高速道路、鉄道等の分野（いわゆる非農耕地分野）でも使用されています。国内のこの分野は、各メーカーが直接販売を行ったり、各地の代理店を通じて最終使用者に製品を届けています。